

保険料のお支払方法

保険料のお支払いは、「年金からのお支払い」または「口座振替」を選ぶことができます。

※「口座振替」を希望される方は、役場福祉課保険係へお申し出ください。

【お申し出の際に必要なもの】～ご本人の保険証、預金通帳とお届け印～

- 「年金からのお支払い」から「口座振替」への切り替えには、2～3か月程度お時間が必要です。
- 税申告の際の「社会保険料控除」は、お支払いする方に適用されます。
(年金からのお支払いの場合、お支払いいただくご本人の社会保険料控除の対象になります。)

ジェネリック医薬品の利用について

- 医療機関で処方される薬には、新薬（先発医薬品）とジェネリック医薬品（後発医薬品）があります。
- ジェネリック医薬品の処方をご希望される方は、医師や薬剤師にその旨を伝えるか、医療機関や薬局の受付窓口に「希望カード」を提出することによりお願いすることができます。「希望カード」が必要な方は役場福祉課保険係までお問合せください。

効き目・安全性について

ジェネリック医薬品は、新薬と同等の効果、効能を持ち、厚生労働省の基準を満たしている安全なお薬です。

※ご希望の際は、必ず主治医や薬剤師に相談しましょう。

価格について

ジェネリック医薬品を利用すると、お薬代が安くなります。
薬によって異なりますが、新薬より3割以上、中には5割以上安くなるものもあります。

病気にかかるときはこんな点に気をつけましょう

自分自身のからだの状態に関心と責任を持ち、お医者さんとの対話を大切にしながら、病気に向き合っていくようにしましょう。

- かかりつけの医師を持ち、気になることがあったら、まずは相談しましょう。
- 具合が悪いときには早めに受診し早めに対処しましょう。
- 同じ病気でいくつもの医療機関を受診することは控えましょう。
- 休日や夜間に救急医療機関を受診しようとする際には、平日の時間内に受診することができないか、もう一度考えてみましょう。

問合せ先

北海道後期高齢者医療広域連合 ☎ 011 (290) 5601
役場福祉課保険係 ☎ (574) 2214

後期高齢者医療制度のお知らせ

～平成26年度の保険料について～

※平成26年度の保険料につきましては、6月中に個別にお知らせしますので、ご確認ください。

保険料の計算方法

$$\begin{array}{l} \text{均等割} \\ \text{【1人当たりの額】} \\ \text{51,472円} \end{array} + \begin{array}{l} \text{所得割} \\ \text{【本人の所得に応じた額】} \\ \text{(平成25年中の所得 - 33万円) × 10.52\%} \end{array} = \begin{array}{l} \text{1年間の保険料} \\ \text{(100円未満切捨て)} \end{array}$$

- 1年間の保険料の上限額は57万円です。
- 年度の途中で加入したときは、加入した月からの月割で計算します。

保険料の軽減

① 均等割の軽減（年額）

軽減は、被保険者と世帯主の所得の合計で判定します。
被保険者ではない世帯主の所得も判定の対象となります。

所得が次の金額以下の世帯	軽減割合	均等割の年額
33万円かつ被保険者全員が所得0円 (年金収入のみの場合、受給額80万円以下)	9割軽減	【年額】 5,147円
33万円	8.5割軽減	【年額】 7,720円
33万円 + (24万5千円 × 世帯の被保険者数)	5割軽減	【年額】 25,736円
33万円 + (45万円 × 世帯の被保険者数)	2割軽減	【年額】 41,177円

② 所得割の軽減

被保険者個人の所得で判定します。

所得が次の金額以下の方	軽減割合
所得から33万円を引いた額が58万円以下の方	5割軽減

③ 被用者保険の被扶養者だった方の軽減

この制度に加入したときに被用者保険の被扶養者だった方については、所得割はかからず、均等割が9割軽減となります。

※被用者保険とは、協会けんぽ等、主にサラリーマンの方々が加入している健康保険のことで、市町村の国民健康保険等は含まれません。

保険料の減免

保険料のお支払いが困難な場合は、役場福祉課保険係へご相談ください。

災害、失業などによる所得の大幅な減少、その他特別の事情で生活が著しく困窮し、保険料のお支払いが困難な方については、保険料の減免が受けられる場合があります。